

編 集 後 記

編集委員の役割は編集企画、原稿の査読とともに、編集後記執筆の分担です。定期刊行物の編集後記の重さは月刊保団連の編集後記に対する最近の出来事が象徴しています。意外に（私にとって?）多くの読者が編集後記を読まれていることを実感させられました。編集後記のない雑誌は、あたかもメニューにデザートがないようなフルコースの料理のような印象を受けます。各メニュー料理（論文）がいかにもすばらしく、美味なものであっても何か終止符のない状態です。そこで、編集後記の重要性に厚顔で書かせて頂く次第です。

本誌は昨年（Vol.15）より年複数回（2回）発刊が軌道にのり、定期刊行物としての体裁が整ったところです。これまでの編集委員の先生方、事務局の方々の努力の結果です。本誌の論文が、何時でも、何処でも（海外でも）必用なキーワードを入力すれば、検索者の求める情報がインターネットを介して、二次資料として瞬時に呼び出せ、公開されることです。これは本誌が6,900部発行していること以上に重要なことで、本誌の論文が国内外の医療関係者、そのすそ野の方々に広く発信でき、医学に貢献できるとともに、怖い面でもあります。検索された論文の質が会員外の方々から広く、第三者評価を受けます。質が高ければ、さらに他誌の論文に引用され、ますます本誌の論文が広く情報を発信できることです。本誌は他の学会誌や商業誌と異なって関連業界の広告記事を一切、廃していることです。会員の先生方の貴重な会費のみによって発刊されています。だからこそ本誌をさらに育て、広く情報発信できなければなりません。そのためにも会員の先生方からの投稿を大いに期待するところです。最近、嬉しいことに会員の先生方からの投稿も増えてきております。本誌が医中誌Webを介して、広く第三者の評価を適正に受けるためには、投稿の国際ルールを遵守する必要があるとあります。そのことによって、本誌の価値が高まることとなります。本誌は本号まで幸いに国際ルールに抵触することはありませんでしたが、今後投稿論文が増加してきますと、他誌にみられるように問題が生じる可能性が除外できません。なお、このルールについて最近わかりやすい解説がありましたので紹介（出月康夫：日医雑誌132：560-561, 2004. および126：1389-1394, 2001.）して編集後記とします。

〔松本 美富士〕

編 集 委 員 (50音順 *印委員長)

額 田 協*	池 山 淳	杉 藤 徹 志
高 橋 英 世	松 本 美 富 士	

明日の臨床

Vol.16 No.1

2004年6月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 6,900部